

序論)

みなさんは、神様を知っているはずなのに神様のことがわからない。聖書を知っているはずなのに、聖書のことばが心にピンとこない。そのようなことがないでしょうか。それはいわゆる霊的スランプといえるような現象で、神様のことを信じているはずなのに恵まれない。そうゆうような状況です。

実は、私はそうゆう経験があります。それは私が献身した後のことで、神学校で聖書を学び、実際に教会で伝道師として仕えているはずなのに、聖書をよんでもピンとこないし、主任牧師のメッセージを聞いても心に響かない。そうゆう時がありました。いわば霊的な盲目といえるような状態です。そして、後になってその霊的な盲目は神様によってそのようにされたのだということを知りました。

みなさん、神様は時にみなさんのことを霊的な盲目にすることがあるのです。なぜ、そのようにされるのでしょうか。今日は御言葉から神様が私達を盲目にされる訳を教えられていきたいと思います。

さばきの現象)

まずは今日の箇所 1 節から 8 節までの箇所に目を向けていきましょう。この箇所は神様がエルサレムをどのように裁かれるのか。そして、そのエルサレムを苦しめた敵たちをどのように裁かれるのかが書かれている箇所です。

いわば神様がエルサレムとその敵に対してなされる裁きの現象について書かれています。これまでこのイザヤ書のメッセージを聞いてきた方々は既にご存知のことだと思いますが、時はイスラエルが北と南に別れ、北イスラエルは既に滅ぼされ、南ユダ王国が残り、その南ユダ王国もアッシリアとか、新バビロニア帝国という強敵によって苦しめられていた時代の話になります。1 節に

29:1 「ああ、アリエル、アリエル。ダビデが陣を敷いた都よ。年に年を加え、祭りを巡り来させよ。

とありますが、このアリエルとは南ユダ王国の首都エルサレムのことです。なぜ、エルサレムのことをアリエルというかというと、エルサレムの中心には神様を礼拝する神殿があつて、その神殿における礼拝の中心は祭壇で生贄を燃やす事だったからです。**2 節の最後に「わたしにとっては祭壇の炉のようになる」と**ありますが、この「祭壇の炉」と訳されている言葉をヘブル語にするとアリーエールとなり、エ

エルサレムはこの祭壇の炉を中心に神様に礼拝を捧げる場所だったので、神様を礼拝する都という意味を強調するためにエルサレムのことをアリエルと言っているのだと思います。

みなさん、まずはこのことをよく覚えてください。エルサレムは神様を礼拝する都アリエルでした。でも、そのアリエルであるエルサレムのことを神様は虐げ、このエルサレムを攻めるために神様がその周りに陣を敷き、取り囲み、ここにいる人たちを地のちりよりも低く、地中に埋められた死人よりも低くする。と言われているのです。

具体的には先程いった新バビロニア帝国を用いて、この街を取り囲み、攻め、滅ぼすというやり方で、神様はエルサレムを裁かれました。

すると当然、このエルサレムを滅ぼすことができた新バビロニア帝国は、自分たちこそ最強であり、自分たちはすべてを手にいれて豊かになったと高ぶるわけですが、神様は、そんなエルサレムの敵をさばかれると言われています。それが 5 節から 8 節の部分です。その部分を私が読みます。

29:5 しかし、敵の群れは細かいほこりのようになり、横暴な者の群れは吹き飛ぶ粗殻のようになる。しかも、それは突然、不意に起こる。

29:6 万軍の【主】はあなた（バビロニア）を訪れる。雷と地震と大きな音をもって、つむじ風と暴風と焼き尽くす火の炎をもって。

29:7 アリエルに戦いを挑むすべての民の群れ、これを攻めて、取り囲み、これを虐げる者たちはみな、夢のようになり、夜の幻のようになる。

29:8 飢えた者が夢の中で食べ、目が覚めると、その飢えは満たされず、渴いている者が夢の中で飲み、目が覚めると、実に疲れて喉が渴いているように、シオンの山に戦いを挑むすべての民の群れもこのようになる。」

実際、新バビロニア帝国は紀元前 539 年にペルシャのキュロス 2 世によって滅ぼされました。歴史を支配される神様はまさにここで言われている通りに、南ユダ王国を滅ぼし、そのエルサレムを攻め取った新バビロニア帝国をも滅ぼされたのです。問題はエルサレムに対する神様の裁きは、エルサレムの滅亡だけではなくた。ということなのです。

エルサレムに対する霊的な裁き)

9 節から 12 節を読んでみましょう。

29:9 驚き、たじろげ。目を閉ざされて、盲目となれ。彼らは酔うが、ぶどう酒のせいではない。ふらつくが、強い酒のせいではない。

29:10 【主】はあなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、預言者というあなたがたの目を閉ざし、先見者というあなたがたの頭をおおわれた。

29:11 そのため、あなたがたにとっては、すべての幻が、封じられた書物のことばのようになった。読み書きのできる人に渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「それは封じられているから読めない」と言い、

29:12 また、読み書きのできない人にその書物を渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「私は読み書きができない」と答えるであろう。

神様はアリエルと呼ばれるエルサレムをいじめ、攻め滅ぼすことを通して彼らの目が閉ざされて、盲目となるようにされる。とここで語られています。当然、ここでいうところの盲目とは、実際的な盲目ではなく、神様からの導きを受けることができず、霊的真理を知る事ができない状態のことを指しています。この人たちはもともとアリエルの民であり、神様を礼拝することが中心のエルサレムの住人ですから、神様のことを知っているはずだし、神様のことばである聖書のこととも知っているはずの人たちです。それなのにまるで書物が封印されて読めない人のように、読み書きが出来ない人のように、仮に読み書きが出来る人がいたとしても協力してもらえずに結局、知りたいことがしれない人のようにされると。聖書はいうのです。

みなさん、なぜでしょうか。なぜ神様は、アリエルの人たち、つまり、神様を礼拝していたはずの人たちを霊的な盲目にされたのでしょうか。

それは彼らが偽善的な礼拝をしていたからです。13節を読んでみましょう。

29:13 主は言われた。「それは、この民が口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬いながら、その心がわたしから遠く離れているからだ。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことである。

エルサレムに住んでいた人たちは、自分たちの中心が神様を礼拝することであったはずなのに、口先では神様に近づき、神様を敬って賛美しながらも、その心では神様から遠くはなれており、神様を恐れるのではなく、人の目を恐れて、人の命令によって義務的に形ばかりの礼拝をしていたのです。

みなさん、伝道師の時に霊的なスランプを経験したと最初にいいました。聖書の

ことがピンとこなくなっていて、霊的に鈍くなっていた時があったのです。まさにその時のわたしの状態が、このアリエルの人々の状態と同じだったような気がします。恥ずかしい話になりますが、伝道師として聖書を専門的に学び、教え、そして、賛美し、礼拝をしているはずが、いつのまにか心から神様を見上げるのではなく、当時の主任牧師の目だったり、役員さんたちの目だったりを気にして形だけの礼拝、義務的な礼拝をしていたのです。

みなさん、神様は、私達がそのような形式的な礼拝をしているとき、私達の心を鈍く、盲目にされるのです。どんなに聖書をよんでもピンとこない、メッセージを聞いても恵まれない。そんな状態にして私達を霊的に飢え乾くようにされるのです。これは非常に不思議な神様のやり方です。

考えてみてください。みなさんだったらどうでしょうか。自分の大切な子供が知るべきことを知ろうとしていなかったら、大切にすべきことを大切にしていなかったらどうするでしょうか。一生懸命、教えて、何が大切なのかを言って聞かせるのではないのでしょうか。私だって自分の娘が人生の中で大切にすべきことをわかっていなかった場合は、わかってもらうために、一所懸命に言って聞かせます。

でも、神様は、神の民の心が神様から遠くはなれ、恐れるべきお方を恐れることができないとき、あえてもっとわからなくされるのです。聖書はこの神様のやり方を、不思議なこと、驚くべきこと。だと言っています。14節を読みましょう。

29:14 それゆえ、見よ、わたしはこの民に再び、不思議なこと、驚くべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」

みなさん、神様にしてみても、神様の民に真理を知ってほしいと思っているはずですが。後半にでてきますが、エルサレムの人々、イスラエル人というのは神様が特別に選びだして救い出したアブラハムの子孫であり、永遠の王国を固くたてると約束したダビデの王国の人々です。つまり、神様が特別な恵みを施すと約束した人たちこそがエルサレムの人たち、アリエルなのです。当然、神様にしてみても真理が分からずに滅んでほしいと思っている訳がないと思います。それなのに神様はあえて、この人たちを霊的な盲目にされました。なぜでしょうか。それは彼らが神様のことを侮っており、何より自分たちが侮っているお方がどのようなお方かわかっていなかったからです。15節のエルサレムの人たちの心の声を聞いてみましょう。

29:15 わざわいだ。【主】に自分のはかりごとを深く隠す者たち。彼らは闇の中で事を行い、そして言う。「だれが私たちを見ているだろう。だれが私たちを知っているだろう」と。

みなさん、人のことを気にして礼拝する人、心から神様を礼拝しない人は、「だれが私たちを見ているだろう。だれが私たちを知っているだろう」といって、自分の心の中のことなんて誰もわからないと思ひこむのです。わかりますか？

そういう人たちは、たとえ形だけの礼拝をしていたとしても、自分のその心の中なんて誰にもバレるはずがないと思ひ込んでいるのです。でも、それは大きな誤解です。

教会の人たち、周りの人たち、牧師にも神様の方を向いていない心の状態がばれていないかもしれませんが、私達が礼拝している神様には、私達の心の中の状態はつつぬけなのです。神様は言います 16 節

29:16 ああ、あなたがたは物を逆さに考えている。陶器師を粘土と同じに見なしてよいだろうか。造られた者がそれを造った者に「彼は私を造らなかった」と言い、陶器が陶器師に「彼にはわきまえない」と言えるだろうか。

聖書はよく私達と神様の関係を陶器師とその作品に例えており、ここでも神様は陶器師のたとえで私達と神様の関係を表現しています。神様が陶器師で私達はその神様に造られた存在なのに、被造物である私達が神様のことを軽んじて「彼は私を造らなかった」とか、「彼にはわきまえない」つまり「神様には理解がない」と言っている というのです。

実際に、エルサレムの人や、教会に集っている人が神様に対して「彼は私を造らなかった」とか、「神様には理解がない」なんて口にだして言う人はいないでしょう。でも、形だけの礼拝、心の伴わない礼拝をしている人は、その礼拝行為によって神様に自分の心なんてわかるわけがないと、言っているようなものなのです。

でも、神様が私達の心の中を知らないなっていうことがありますか？ありえませんよ。だって神様は私達を造ってくださったお方であり、創造主なるお方ですから。私は、熊原さんのように大工さんではありませんが、コンピューターエンジニアとしてコンピュータで動くプログラムを作る側の人間だったから、作る立場の者が自分が作ったもののことを一番、知っているっということがよくわかります。

みなさん、コンピュータであれ、車であり、家であり、その作品のことを一番よく知っているのはそれを作っている人たちです。ただの利用者はコンピュータのプ

ログラムの中身とか、車のエンジンの中身とか、家の壁の中がどうなっているとか、そういうことは知らないかもしれません。でも、作っている人はちゃんと中身までよくわかっています。神様もそれと同じです。神様は私達の心さえも造られたお方なので、当然、私達の心が神様に近づいているのか。神様から遠いところにあって、形だけ礼拝をしているのかをよくわかっておられるのです。

そして、よくわかっているからこそ、神様は形だけの礼拝をする者の心を盲目にし、霊的な真理をわからないようにされるのです。なぜでしょうか。

それは私達を霊的に盲目にすることによって、私達に本当の救いを与えるためです。

【主】による礼拝者の回復)

1 7 節からの箇所は、神様がなされる霊的回復のみわざについて書かれています。1 8 節 1 9 節を読んでみましょう。19 節の【】の中は読まなくて結構です。

29:18 その日、耳の聞こえない人が、書物のことばを聞き、目の見えない人の目が、暗黒と闇から物を見る。

29:19 柔和な者は【主】によってますます喜び、貧しい者はイスラエルの聖なる方によって楽しむ。

その日とは神様が定められた日のことですね。神様が定められた日、その時に霊的に盲目にされた人たちは、神様の真理を聞き、霊的真理が見えるようになると言われています。そして、柔和な人・・・これはへりくだった人、神様によって砕かれた人のことを指します。神様のさばきを経験して、その心が砕かれたひとは、【主】によってますます喜び、神様を楽しむことができるようになるのです。

神様がなぜ、神の民を霊的な盲目にされるのかというと、高ぶっていた私達が神様によって砕かれて、本当の意味で【主】を求めるようにするためなのです。

私もあの霊的に盲目にされていたときのことを思い出すと本当に苦しかったことを思い出します。【主】からの答えがほしいのに示されない。そのことで本当に苦しくつらく、自分が何もわかっていないことが示され、より一層神様のみ心を求めさせられたことが思い出されます。

神様はそのように私達を霊的盲目にすることで、より一層【主】をもとめ、砕かれた思いで【主】を求めるようにされるのです。それは同時に、神の民の中の高ぶるもの、嘲^{あざけ}る者を神様が滅ぼされることを意味しています。2 0 節を読みましょう。

29:20 横暴な者はいなくなり、嘲る者は絶え果て、よこしまなことを企む者はみな絶ち滅ぼされるからだ。

みなさん、私達の心の中の高ぶりは徹底的に滅ぼされなければ、私達は本当の神様を知ることができません。古い自分は徹底的に死ななければいけないのです。神様はそのために神の民を盲目にし、神様の前でへりくだって【主】を恐れ、【主】を求めるものだけが残るようにされるのです。

わかるでしょうか。これが神様の高慢になった神の民を救い出す方法なのです。そして、このような過程を通ることで、神の民は神の民として、神様を聖とすることができ、本来の姿を取り戻していくのです。そして、そのようにされるとき、神の民には恥も不安もなくなり、神様を心から恐れる者になることができるのです。

22節、23節で

29:22 それゆえ、アブラハムを贖い出された【主】は、ヤコブの家についてこう言われる。「今からヤコブは恥を見ることがなく、今から顔が青ざめることはない。

29:23 彼が自分の子らを見て、自分たちの中にわたしの手のわざを見るとき、彼らはわたしの名を聖とし、ヤコブの聖なる者を聖として、イスラエルの神を恐れるからだ。

と書いてあるとおりです。

まとめ)

みなさん、皆さんは、霊とまことによる礼拝ささげておられるでしょうか。

心から神様を恐れ、敬い、心から賛美している礼拝となっているでしょうか。

それとも、親の目だったり、兄弟姉妹の目だったり、牧師の目を気にしながら一応、毎週の礼拝を捧げているだけのじょうたいでしょうか。

私達をお造りになった陶器師なる【主】、創造主なる神様は私達の心の中を知っておられます。そして、私たちの心が神様を神様として敬うことができていないのならば、時として神様は私達を霊的な盲目にし、徹底的に私達の心を砕き、高ぶる心を捨てさせ、心の底から【主】を求めさせるようにするのです。

みなさんの中で、もし、そのような状態に自分がいると思うのならば、聖霊様により頼んで、【主】の前に徹底的にへりくだりましょう。もし、【主】によって心が迷う状態、【主】に対して叫びを上げずにはいられない状態にいたのであれば、それ

こそが皆さんにとって必要な状態なのです。

私達の救いは【主】だけにあります。私達の答えは【主】だけにあります。【主】に心の迷いを告白し、救いの声を打ち明けましょう。【主】はそうのようにして砕かれたものに対して24節のように言われます。

29:24 心迷う者は理解を得、不平を言う者も教訓を得る。」

みなさんがもし霊的なスランプに落ち込んでいるのならば、それは【主】がみなさんを、変えようとされている最中なのかもしれません。

私達を霊的盲目にし、私達の心の高ぶりを滅ぼし、砕かれた心を私達に残す。その【主】によって真理を知る者へと変えていただきましょう。